

## 第 15 回比較防災学ワークショップ みんなで防災の知恵を共有しよう

平成 26 年度第 4 回災害対応研究会 公開シンポジウム

「国難と都市災害：来るべき国難にどのように備えるべきか-Ⅲ」

日時 2015 年 1 月 22 日（木） 14:00~16:30 — 1 月 23 日（金） 10:00~16:00

場所 神戸国際会議場 5 階 501 号室

### 公開シンポジウム（1 日目）「何が明らかになったか」について研究代表者が語る

（司会：越山） 皆さん、ようこそお越しいただきました。第 8 回災害対策セミナー in 神戸、平成 26 年度第 4 回災害対応研究会公開シンポジウム、第 15 回比較防災学ワークショップとして、「国難と都市災害：来るべき国難にどのように備えるべきか-Ⅲ」を始めさせていただきます。司会を務めさせていただく関西大学の越山です。よろしくお願いします。

本シンポジウムは本日と明日にわたって行われますが、本日は研究代表者 2 名からプレゼンテーションを頂きます。質疑応答は発表後に行わせていただきたいと思います。

最初に、京都大学防災研究所の林先生から、開会の挨拶と基調講演を頂きます。よろしくお願いします。

#### 開会挨拶

林 春男（京都大学防災研究所 教授）

今日と明日の 2 日間にわたり、比較防災学ワークショップと災害対応研究会公開シンポジウムの合同の集まりである「国難と都市災害：来るべき国難にどのように備えるべきか-Ⅲ」を開かせていただきます。

比較防災学ワークショップは今年で 15 年目になりますが、もともとは京都大学防災研究所にある巨大災害研究センターが行っていたプロジェクトの中で、日米国際共同研究の一環として文化、立場、ハザードといった防災に関わる多様な側面を比較しながら、どういものがコアなのかを見つけようという趣旨で始めたものです。基盤となるプロジェクトは次々と変わりながら 15 年間細々と続けてきて、今年で 15 回目になります。

また、災害対応研究会は、阪神・淡路大震災の直後に発足した土木学会関西支部の緊急対応分科会が 3 年で終了したのを受けて、同じく巨大災害研究センターで始めた研究会です。年に 4 回、最初は全部クローズドで行っていましたが、10 年以上前から年に 1 回公開で行うことにして、神戸のこのイベントへ「にぎやかし」として参加しています。この二つがドッキングして、2 日間のプログラムを組ませていただいています。

「国難と都市災害」というタイトルの「国難」は、関西大学の河田先生が研究代表者を務める文部科学省の科研費の基盤 S のプロジェクト『国難』となる最悪の被災シナリオと減災対策から、そして「都市災害」は、私が研究代表者を務める文部科学省のプロジェクト「都市の脆弱性が引き起こす激甚災害の軽減化プロジェクト」から取っています。よく見ると研究分担者がかなり重複しているので、プログラムがスタートした 3 年前から、年に一遍、この二つを合わせて研究の進捗を共有する会を始めています。

私たちのセンターの基本は水戸黄門型にやるということで、マンネリズムを標ぼうして

います。一度型ができれば、それをⅡ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴと続けていきます。どちらも5年のプロジェクトなので、今年はちょうど中間年に当たります。明日は都市災害側から3人、国難側から3人、合計6人がスピーカーとなって、個々の研究者が最前線でどんなことをしているのかということを紹介します。そして、今日は研究代表者がそれぞれ今何を考えているかを紹介するというので、1時間ずつ頂いています。以上が会の趣旨説明です。